

介護保険の制度改正と新しい総合事業について



平成29年4月から、新しい総合事業が始まります

団塊の世代が75歳以上になる平成37年にかけて、1人暮らしや認知症の高齢者、高齢者夫婦のみの世帯がこれまで以上に増えてくると考えられています。地域コミュニティの希薄化や孤立化といったことも社会問題になっていきます。

こうした中で、地域で暮らすための生活支援の必要性は増し、求められるサービスも多様化していきます。

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていただけるように、介護保険や行政サービスに加え、ボランティアによる支援や地域全体で高齢者を支えるとともに、高齢者自身も自らの持つ能力を生かして「役割」や「生きがい」を持つなど、要介護状態にならないようにすることが大切です。そのための仕組みとして、介護保険制度において「介護予防・日常生活支援総合事業（新しい総合事業）」が創設されました。

しかしながら、高齢化の進展状況や必要とされる支援には地域差があることから、新しい総合事

業は地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げて行くことが必要とされています。

●南丹市の現状

市が平成26年に出した将来人口推計によると、総人口は減少し続け、高齢者の占める割合が少しずつ増えていく見込みです。推計では平成28年の人口は3万3045人となっていますが、平成28年4月の人口は3万2748人と、推計を上回るペースで減少しています。

南丹市の人口と高齢化(65歳以上)率 単位:人

		園部	八木	日吉	美山	南丹市
65歳以上	男	1,852	1,202	826	756	4,636
	女	2,564	1,647	1,111	1,047	6,369
	計	4,416	2,849	1,937	1,803	11,005
総人口		15,978	7,616	5,090	4,064	32,748
高齢化率(※)		27.6%	37.4%	38.1%	44.4%	33.6%

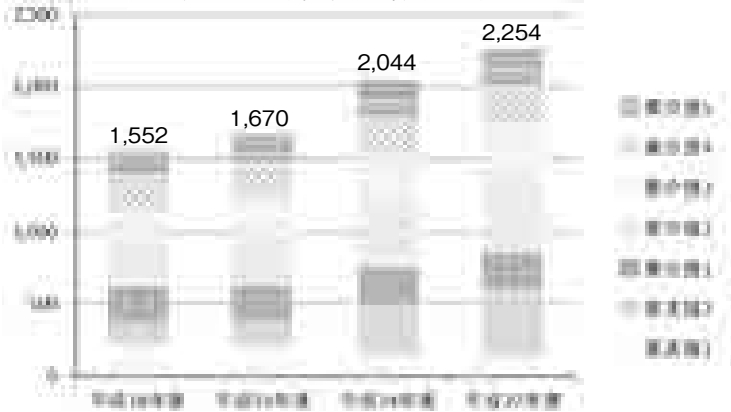
※算出方法：65歳以上人口÷全年齢人口×100

また、世帯数はわずかに増加しているものの、1世帯当たりの人数は2・34人にまで減少しており、高齢化率（総人口に占める65歳以上の割合）は、市全体で33・6%となっています。

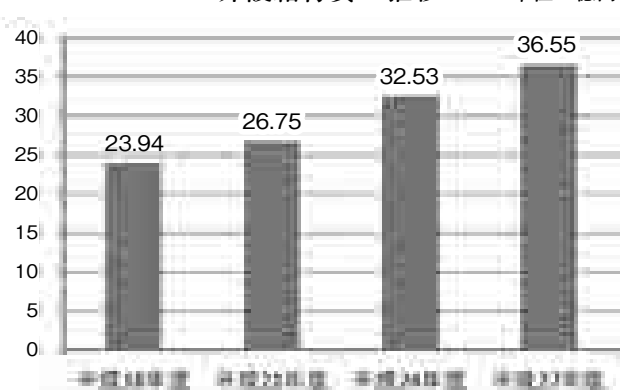
●南丹市の介護認定者数と介護給付費の状況

要支援・要介護の認定者数は年々増加傾向にあり、平成27年度末の認定者数は、2254人で認定率（65歳以上人口に占める要支

要支援・要介護認定者数の推移 単位:人



介護給付費の推移 単位:億円



援・要介護認定者の割合）は20・99%となっています。現在は高齢者の5人に1人が認定を受けておられ、年々、介護サービスのニーズが高まっていることがわかります。また、介護ニーズの高まりに合わせて、介護保険の保険給付費も年々増加しており、平成18年度の合併時と平成27年度を比較すると、約1・5倍増となっています。

